

ドル/円相場のトレード戦略

【ドル/円 週足】



■中期展望

昨年 2018 年のドル/円相場は、当初想定していたように 2017 年と同様のレンジ相場が継続しました。

年間の値幅は 10 円を下回り過去最少、2017～2018 年の 2 年間を通して値幅は 14 円に満たず過去最少となり、市場のボラティリティから収益を得ようとするディーラーにとっては極めて厳しい環境となりました。

その大きな要因としては、絶好調だった米国の経済状況にもかかわらず、年初に米国の政策への不透明感からドルが下落したこと、そして年末には米金利のフラットカーブ化やそれに伴う米国株式の大幅下落、米中貿易摩擦の激化などのリスク要因が相次いだことでドルの上値が抑えられたことが挙げられるでしょう。

米国経済が強調であり利上げ予測が続くためにドルロング・ポジションが蓄積される中でもドルが大きく上昇しないという現象は、ドル高派にとって想定しにくい状況であったと思われます。

そのため、本年年明けの 1 月 3 日に 108 円を割り込むと損切りのドル売りを巻き込みながら、ドル短期に 4 円以上の下落という動きが引き起こされました。

その後、1 月の米 FOMC では声明文から追加利上げのバイアスが削除され利上げ継続という政策スタンスが大きく変わったことによりドルは持ち直しました。

また、米経済指標は好調を維持するものも多く、良好なファンダメンタルズのなか金利が低位安定

ドル/円相場のトレード戦略

するという適温相場が再び始まったとの期待が強まっています。

米中通商交渉に関しては、交渉継続と米国の対中関税引き上げ延期により、警戒感が後退しましたが、6月のFOMCで米国が利下げ方向へ政策変更したことが明確となっており、これがドルの上値を抑える要因となるでしょう。

米中貿易摩擦への警戒感は根強く残り、米国の利下げ観測が強まる中、当面は下値リスクが高いと思われませんが、ドルが一方向的に売り込まれる経済状況にもなく、年後半も107円から112円程度のレンジが想定されます。

ただし、107円を割り込むと年初の安値104円台が視野に入ってくることには注意が必要でしょう。

■短期展望

先週は、107円後半でスタートした後、米小売売上高が予想を上回ったことで108円37銭まで上昇したものの、その後米FRB高官が相次いで利下げの必要性に言及したことでドル売り圧力が強まり107円21銭まで下落しました。

ただし、週末には大幅な利下げを否定する当局者の発言もあり107円後半に反発して週を越えています。

今週は、FOMCを前にして模様眺めの動きが続く可能性が高いものの、高値圏にある米国株相場がいくらか益出しの売りに圧され、軟化した場合はドル安へと波及する可能性があるでしょう。

したがって、今週のレンジは107円から108円半ばを想定します。